

一般社団法人日本機械学会 第19回標準事業表彰 選考結果

貢 献 賞			
	受賞候補者名	業績名	推薦理由
1	井上 剛志	機械システムの状態監視と診断に関する国際標準規格化活動及びその普及と教育	機械システムの予防保全は安定安全な社会の維持に必要不可欠であり、近年のIoT化の進展やセンサの高度化低廉化と相まって大量データの取得・解析が可能となったことから大変な注目を集めている。そのため「機械システムの状態監視と診断技術」へのニーズや期待は急激に高まっており、同分野の規格化と人材育成は喫緊の重要課題である。候補者は同分野のISO規格化の国内委員会活動に幹事・委員長として長期間にわたり継続的に取り組んできた。また近年は同規格に関する技術の啓蒙と教育のために日本機械学会主催の講習会を企画・実施し、多数の受講者に対して時代に適合あるいは先取りした教育の機会を提供してきた。加えて、2021年には日本機械学会編「機械システムの状態監視と診断技術」(コロナ社)を執筆・出版するなど、同分野における規格と技術の普及に大きく貢献し、日本機械学会の標準事業表彰(貢献賞)に値する。
2	野村 友典	原子力発電プラントの維持規格策定	候補者は発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 維持規格分科会に1999年の設立当初より名を連ね、2003年3月より副主査、2010年4月からは主査として維持規格の制改訂を主導しており、現在に至るまでわが国の原子力発電プラントの維持管理のための規格の体系的な整備・改良に尽力してきた。同規格は今や国の技術評価を経てプラントの維持管理のため国内で広く活用されている。候補者の長年にわたるこれら取り組みは基準の作成、普及に寄与するとこと大であり、日本機械学会の標準事業表彰(貢献賞)に値する。
国 際 功 績 賞			
	受賞候補者名	業績名	推薦理由
1	鍋島 厚太	サービスロボットの性能評価に関する国際標準化	候補者は、ISO(国際標準化機構) / TC299(ロボティクス) / WG4(サービスロボットの性能)のコンビーナを務め、市場適格性及び技術妥当性を欠いた規格策定を見直し、サービスロボットの性能評価に関する国際標準化に大きく貢献している。2021年度には産業標準化事業表彰(経済産業大臣表彰)

			を受賞するなど候補者の活躍は目覚ましく、日本機械学会の標準事業表彰（国際功績賞）に値する。
2	北条 公伸	日本機械学会発電用設備規格に基づいた ASME B&PV Code 原案策定	長年に渡り、日本機械学会維持規格と ASME B&PV Code Section XI での規格策定に携わり、両規格間の技術的整合性の確保を牽引されている。最近では、日本機械学会維持規格の事例規格 NA-CC-012「原子炉容器炉内計装筒 J 溶接部の欠陥評価」の技術的規定を、ASME Boiler & Pressure Vessel (B&PV) Code Section XI に提案し、Code Case N-897 として 2021 Edition で発行された。また、日本機械学会維持規格において、配管に対する応力拡大係数の高精度化の改定を行うとともに、その評価式を ASME B&PV Code Section XI の Appendix C に取り込む改定も行われている。以上のことから、日本機械学会の標準事業表彰（国際功績賞）に値する。

コードエンジニア賞

	受賞候補者名	業績名	推薦理由
1	飯田 英男	発電用火力設備規格の策定、改訂、対外説明、火技解釈への取り入れ申請	発電用設備規格火力専門委員会の活動に長期に渡って参画し、2002 年 8 月～2006 年 6 月は材料分科会、2011 年 9 月から現在まで火力専門委員会（副委員長、幹事）、構造分科会（主査）、溶接分科会（委員）として火力設備規格の策定から審議対応に至るまで中心的な役割を果たしている。特に構造分科会ではダブルチェック者としてボイラ、圧力容器、配管規格全体を確認し指導した。また、経済産業省や他の規格作成団体への説明にも対応し、2016 年 2 月の火技解釈改正における JSME 火力設備規格 2012 年版のエンドース時の中心的役割を果たした。これらの活動経歴から日本機械学会の標準・規格の策定への貢献が顕著であり、今後も活躍が見込まれる。以上のことから、日本機械学会の標準事業表彰（コードエンジニア賞）に値する。